

[成果情報名]ネギ秋冬どり栽培における苗貯蔵技術の開発

[要約]ネギ秋冬どり栽培でネギ苗を貯蔵温度 5℃以下、貯蔵期間が 4 週間までなら、貯蔵をしていない苗と比較して収量が同等に確保でき、定植時期の不利な環境条件を回避することができる。

[キーワード]ネギ、ネギ苗貯蔵、貯蔵温度、貯蔵期間

[代表連絡先]電話 0480-21-1115

[研究所名]埼玉県農林総合研究センター・園芸研究所・野菜・花担当

[分類]有用成果情報

[背景・ねらい]

秋冬どり栽培では、定植時期に梅雨やゲリラ豪雨などに遭遇し準備した苗を予定どおりに定植できないこと、また、近年夏の異常高温により、定植した苗の生育が停滞することが問題となっている。そこで、ネギ苗の貯蔵温度と期間を検討し、定植時期に不利な環境条件を回避するためのネギ苗貯蔵技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 貯蔵中の苗の外観品質の変化

- (1)貯蔵温度の上昇と貯蔵期間が長くなるのに従い、葉色の低下がみられた（図 1）。
- (2)貯蔵温度 10℃区は、いずれの貯蔵期間でも葉の伸長がみられた（図 1）。

2. 貯蔵苗の収量性

- (1)ネギの調整後 1 本重は、貯蔵期間が長くなるほど減少する傾向がみられた（図 2）。
- (2)葉鞘長は貯蔵期間が長くなるほど短くなる傾向がみられ、貯蔵 6 週間では、いずれの貯蔵温度でも貯蔵無よりも短くなった（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1. 生産者は冷蔵庫等を活用して、貯蔵したネギ苗を利用した定植に取り組み始めている。
- 2. ネギ苗を貯蔵する場合は、貯蔵中の苗を過湿にすると生育が順調に進まず減収する可能性があるため、留意する。

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2011～2013 年度

研究担当者：中畝 誠・塚澤和憲

[具体的データ]

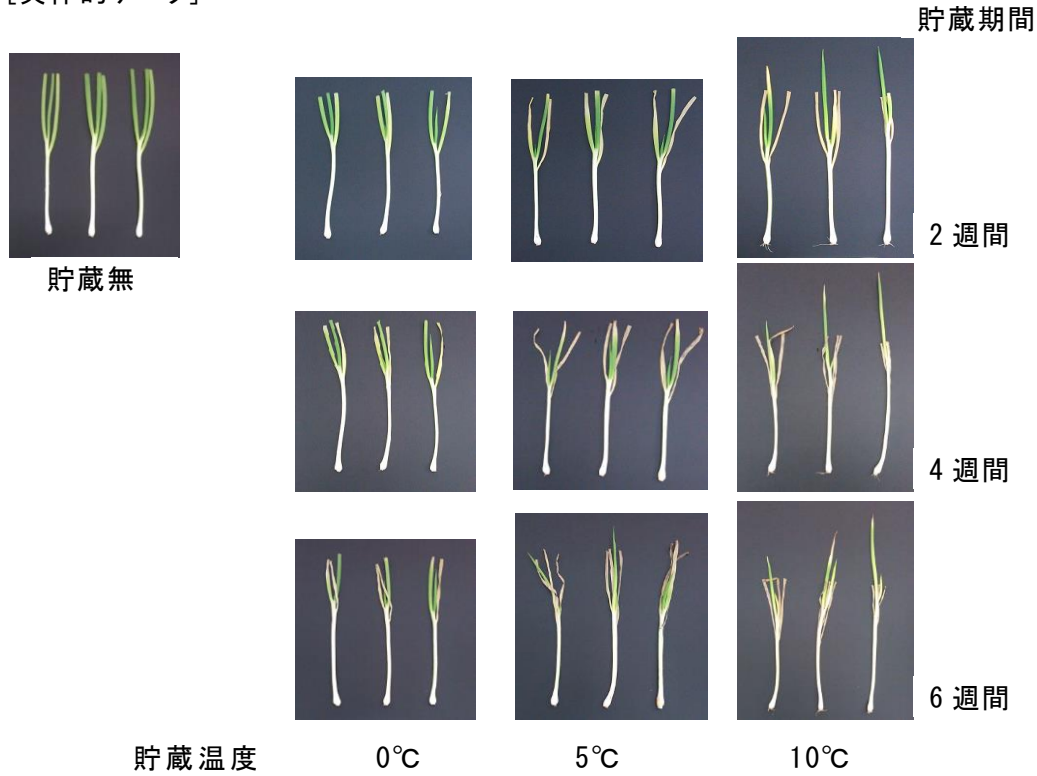


図1 貯蔵前後の苗の状況

耕種概要 供試品種：龍翔、播種日：2012年5月1日、貯蔵開始日：2012年8月3日、定植日：貯蔵開始日から2週間毎に各温度区の苗を定植、施肥：窒素を10a当たり25kg施用・土寄せ：10月22日、12月12日、12月27日、収量調査：2013年3月1日

貯蔵条件 温度：0、5、10°C、期間：2、4、6週間、湿度：80%

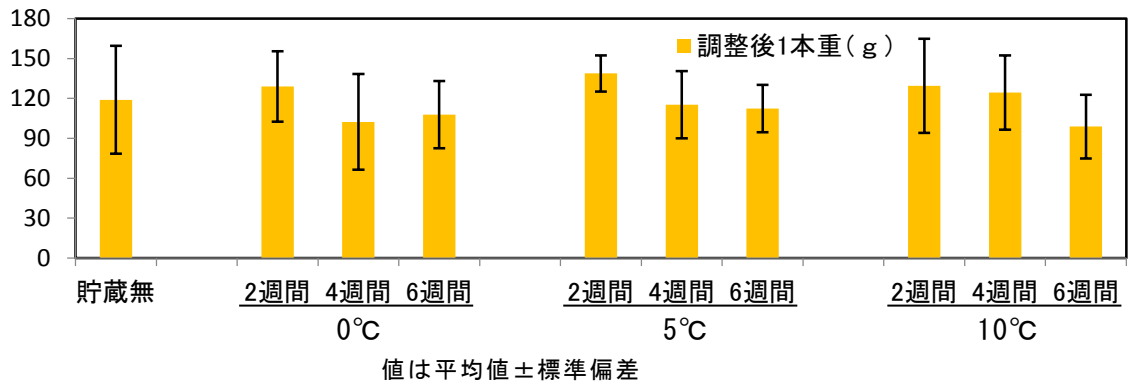


図2 収穫調整後1本重

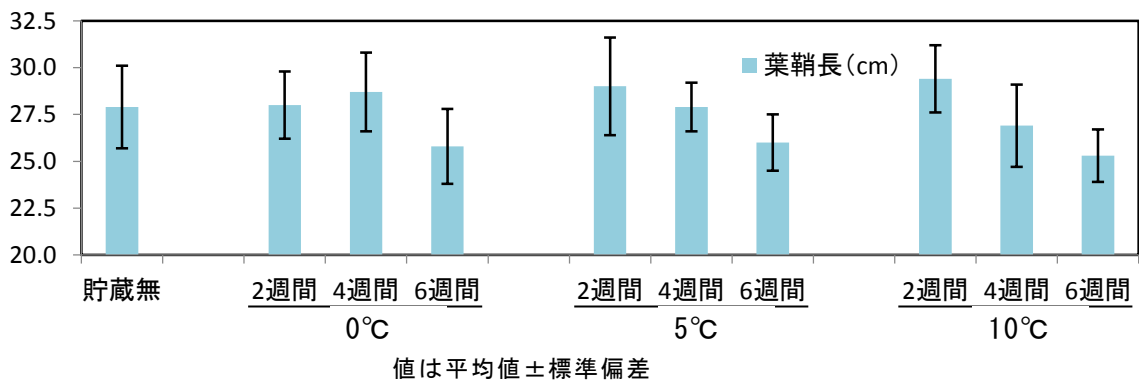


図3 収穫調整後葉鞘長